



みんながいてくれるから

井堀 恵

2011年、体に異変を感じた。それから検査入院を何度か行ない、2013年、やっと診断名が見ついた。私は正直ホッとした。周囲に自分の体のことを思うように伝えられないもどかしさと、私がさぼっているのかなと思う気持ちの狭間にいたから、病名がわかってからは「もう無理しなくていいんだ。やっぱり病気だったんだ。」と思った。

しかし、治療の為、入院、自宅療養と過ごす中、もう以前の私にもどれないことをいろんな場面で知ることになり、併せて病気の難しさを時が経てば経つ程感じるようになった。

私の病気は難病に指定されている。病気の症状は様々有るが、私の主な症状は手足が動きにくくなり、力が入りにくくなっていく。その為、今まで出来ていたことが出来なくなったり、あたりまえとっていたことがあたりまえじゃなくなっている。簡単なことが出来ない時など、情けなく泣きたくなる。体どころか心まで自由を奪われた気持ちになる。

でも、いつも心が折れずにいる。それは私を支えてくれる家族や友達、そして少しでも体が楽になるようにと一生懸命考えてくれる病院の先生や看護師さん、相談員やヘルパーさん、役所の方々がいるから。みんな、ぐちをきいてくれたり、生活面での工夫を考えてくれたりと私以上に一生懸命になってくれる。自分のことのように考えてくれる。だから私は幸せものだと思う。

生きていればいろんなことがある。誰にでもいろんなことがある。私に起きたことはたまたま病気だったけど、こんなに支えてくれる人が一杯いて私は本当に幸せものだ。病状とともに、心の浮き沈みはあるけど、落ち込んでも、めげても、泣いても、いつも立ち直れている。それはひとりじゃないから。みんながいてくれるから。

本当にありがとう。これからもよろしくお願いします。

